レザー職人のご友人が作ったという一点もののタンクエプロン。ハードロックバンドでギターを担当している岡本さんらしく、スタッズが並んだ男らしいデザインだ。

ル・マンのタイヤとダンロップD1の5Jホイールで足もとが一層精悍な印象に。

AUSTIN MINI MkII style

AUSTIN MINI MkII style

ボディカラーまでこだわり抜かれたオースチンMkIIスタイル

photo =BanYumi　text= 中島　健 ken nakajima

Special thanks= インペリアルクラフト大阪 tel.072-720-6780 http://www.imperials.jp

Owner：
岡本敦史さん

ご自分でお店を営まれている岡本さんは、毎週日曜になると娘の京花さんとともにミニで仕入れに出かけているとのこと。「ときどき、ミニ乗りのお客さんがやってきますが、いつか自分のお店でミニ仲間を集めて、ミニを通した人の話ができればと思っています」。

ヴィンテージスタイルといえばMkI仕様が主流となっている中で、あえてMkIIスタイルを選んだ岡本敦史さんは、なかなかのこだわり派だとうかがえる。さらにディティールを追っていけば、グリルや前後のエンブレム、さらにフェスタイエローのボディカラーもすべてオースチン揃えだ。ここまで徹底したドレスアップには、何か理由があるのだろうか？

「私の父が、'70年代当時にアーモンドグリーンのMkIIに乗っていたことがきっかけで、大人になったらミニに乗りたいと憧れたことがいちばんの理由ですね。ただ、ボディカラーは光加減でいろんな色に見えるフェスタイエローが気に入っています」と語る岡本さん。スタイリングについては大事なポイントを抑えながらも、すべて縛られないようご自身の好みも反映しているという。

「最初はスチールホイールの予定でしたが、お店で見かけたダンロップD1ホイールがかっこよかったので、オーバーフェンダーも用意して装着しました。さらに、クラシックなイメージが気に入って、バンパーもMkIタイプを選びました」。

そんな岡本さんは、実はニューミニからの乗り換え組。現在のミニを手にしてからまだ1年経っていないというが、そのダイレクトな乗り味にはすっかり病みつきになっているという。「子供が大きくなったので、そろそろいいかなと思って乗り換えました。ゴーカートフィーリングっていうんでしょうか。通勤で使っているので、365日毎日乗っていますが、走っていてとても楽しいです。トラブルもなく、一般道を走る分にはとても楽しい車だと思います」と、ミニのドライブフィーリングの虜になってしまったご様子だ。

快適性に定評があるインペリアルクラフトのエアコンはユニットが小さいため助手席の足元にもゆとりがある。

内張やカーペット類はすべて張り替え済み。ウッドパネルにはスミスの時計をセット。

01.さざなみ模様が特徴的な、オースチンMkIIタイプグリル。02.03エンブレムは前後とも、オースチンMkIIクーパーSで統一。04.トランクノブもイカリ型に変更。05.クラシカルな可倒式ライセンスプレートも、トランクリッドを開けばきちんと機能。